

< あなたの治療について >

消・外-Cmab/CPT11-大腸-Biweekly

今回の治療は、Cmab/CPT11 という治療法で、アービタックス ( C225 )、イリノテカン ( CPT11 ) という注射薬を併用して行います。アービタックス、イリノテカンは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

治療全体の流れ

今回の化学療法は5週間が1コースとなっています。各コースの1、8、15、22、29日目に点滴を行います。この治療を5週間(35日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1 日目	2~7 日目	8 日目	9~14 日目	15 日目	16~21 日目	22 日目	23~28 日目	29 日目	30~35 日目
	レスタミン (ALB -を抑える薬)	内服										
	グラニセトロン (吐き気止め) デキサート (ALB -予防・ 吐き気止め)	点滴 約15分			お休み				お休み		お休み	
	デキサート (ALB -予防・ 吐き気止め)	点滴 約15分	お休み				お休み					
	アービタックス (抗がん剤) 初回400mg/m <sup>2</sup> 2回目以降250mg/m <sup>2</sup>	点滴 初回 約2時間 2回目から 約1時間		お休み		お休み		お休み		お休み		お休み
	生理食塩液 (電解質)	初回 約1時間 2回目から 約15分										
	イリノテカン (抗がん剤) 150mg/m <sup>2</sup>	点滴 約90分			お休み				お休み		お休み	

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなっている、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

## 起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

### アービタックス・イリノテカンについて

ざ瘡、発疹、皮膚乾燥、そう痒症 爪囲炎 食欲不振、悪心、嘔吐 下痢、腹痛 口内炎  
疲労 白血球減少、ヘモグロビン減少・貧血、血小板減少、リンパ球減少 低マグネシウム血症  
\* ざ瘡、発疹、皮膚乾燥、そう痒症 爪囲炎などの皮膚障害については、別添の資料を参照して下さい。

## 特徴的な副作用について

### アービタックスにおける

#### infusion reaction

「気管支痙攣、蕁麻疹、低血圧、意識消失、ショック」などの症状

\* 異常を感じた時はすぐに知らせてください。また、症状の予防として、本剤投与前に抗ヒスタミン剤の服用とステロイドの注射を行います。

### イリノテカンにおける

#### 過敏症状

呼吸困難、血圧低下等

#### 下痢

\* 排便回数の増加、水様便又は腹痛を伴うような場合は、医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

#### 腸管穿孔、消化管出血、腸閉塞、腸炎

激しい下痢、腹痛、下血、頑固な便秘など

#### 間質性肺炎

「息切れがする、息苦しくなる；から咳が出る、発熱」などの症状

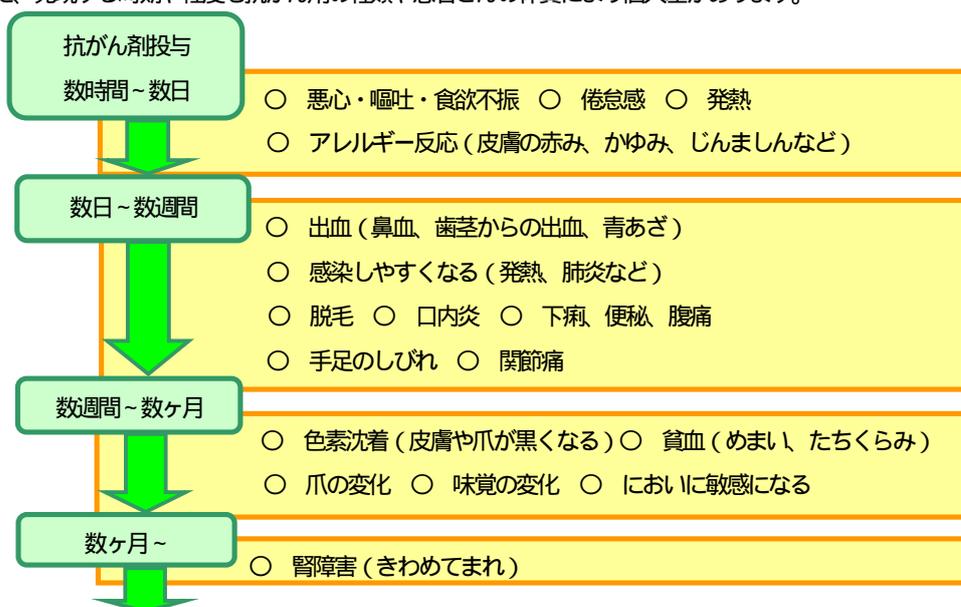
\* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

## 副作用の発現時期の目安

\* この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



## 副作用の対策について

吐き気・嘔吐，下痢と便秘，口内炎，感染症，出血，貧血，脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

## 薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

### 【アービタックス】

- <アナフィラキシー様症状>急に呼吸が困難になる、蕁麻疹、血圧低下
- <皮膚症状>ざ瘡様(にきび様)皮疹、皮膚の乾燥及び亀裂（炎症性及び感染性の症状が続く）
- <間質性肺疾患>咳が続く、息苦しい、発熱、から咳がでる

### 【イリノテカン】

- <骨髄機能抑制> いつもより体がだるく熱っぽい、皮下出血がある。
- <重症感染症（敗血症、肺炎等）> 寒気がする。ふるえを伴う急激な高熱がでる。脈拍数が増加する。筋肉痛がある。関節が痛い。血圧が下がる。咳や痰が出る。息切れがする。
- <DIC（播種性血管内凝固症候群）> 階段や坂を上る時に心臓がドキドキする。息切れがする。身体がだるくなる。鼻血、歯ぐきの出血、皮下出血など、出血しやすくなる。
- <感染症> 寒気がする。熱がある。だるい。
- <下痢・腸炎> 泥状または水様の便が続く。突然、下痢になったり、吐き気、おなかが痛くなる。また、長期的に下痢や便秘異常が続いたり、便に粘液が混ざることがある。
- <腸管麻痺・腸閉塞> おなかが張って痛み、吐き気がする。便が出なくなったり、おならが止まる。
- <消化管出血> 暗赤色・鮮血色の血液が便の表面に付着する。イチゴゼリー状の便、黒色便、タール便がでる。
- <腸管穿孔> 激しい腹痛が始まり痛みが持続する。
- <過敏症> 発しんやかゆみなどがでる。熱感があつて、だるい、気分が悪い。
- <ショック> 下痢や吐いた後、顔が青ざめる。冷汗がでる。立ちくらみやめまいがする。息切れがする。意識がなくなる。
- <アナフィラキシー様症状> 口の中に違和感を感じる。唇がしびれる。息苦しくなる。蕁麻疹（じんましん）やかゆみがでる。眼や唇のまわりが腫れる。意識障害がある。心臓がドキドキする。息切れがする。身体がだるくなる。頬などが赤らむ。
- <肝機能障害> 身体がだるくなり、吐き気がする。尿の色が濃くなる。白目や皮膚が黄色くなる。
- <急性腎不全> 尿量が少ない。食欲がでない。身体がだるい。むくむ。
- <間質性肺炎・肺線維症> から咳がでる。息苦しい。息切れがする。
- <肺塞栓症> 突然、息が苦しくなり、胸骨（胸の中央の骨）の下に不快感を覚える。脈が速くなる。
- <静脈血栓症> 下半身で血液がうっ滞をおこしたところが腫れたり、口唇や頬が青紫色になる。歩行により痛みが増す。
- <心筋梗塞> 突然、胸が締めつけられたり、焼けるような痛みが強く、長く続く。
- <狭心症発作> 急に胸が締めつけられたり、押さえつけられたり、詰まったような痛みがおこる。胸だけでなく、みぞおち付近や左腕、肩まで痛みがひびくことがある。
- <心室性期外収縮> 瞬間的に心臓がドキッとしたり、脈が抜けたような感じや息が詰まる感じがする。

**上記のほかにも副作用が現れることがあります。**

**他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。**